

人権保育専門講座1

遊びをとおして育む人権感覚

子どもを豊かに育てる うたあそび わらべうたあそび

リズムと表現の会 谷畑 恵子 さん

今年度も、三重県子ども家庭局からの委託事業・人権保育専門講座が始まりました。

人権保育専門講座1は、昨年度に引き続き、リズムと表現の会の谷畑恵子さんに「子どもを豊かに育てるうたあそび・わらべうたあそび」と題して、四日市庁舎・伊勢庁舎・伊賀庁舎の3会場でお話いただきました。3回の講座に100名を超える方にご参加いただきました。

谷畑さんの保育現場での経験のなかで出会ってきた子どもたちの具体的なすかたをお話いただきながら、さまざまふれあいあそびやうたあそびを体験的に教えていただきました。



「人権保育」というけれど…

「人権保育」ということばに、難しさや抵抗感を感じていないでしょうか？

谷畑さんは、今まで大切にしてきた保育の視点や保育の原点としてきたことについて伝えてくださいました。そのなかにも、子どもたち一人ひとりを大切にする「人権保育」とは何かをつかむヒントがあるのではないかと思います。

《大切にしてきた視点》

- ◆ **子どもの姿から出発すること**
- ◆ **子どもたちから学ぶということ**

からだがかたい、うごかない、うたわない…などの子どもの姿から

「やりたいのにできない」子どもの気持ちに寄り添い、
親とともに子どもを育てていくことを大切にしよう

《保育の原点としてきたこと》

今、生きている目の前の子どもたちとともに！

保育の方法や技術、素材選びは大切ですが、「たのしいな〜」「もう1回やろう」「もっとやりたい！」と、からだぐるみで、仲間と楽しく遊ぶことが子どもたちの生活の中心です。しかし、子どもが楽しみ、おもしろければ何でもいいというわけではありません。子どもたち一人ひとりのくらしに即し、いろいろな人とつながり、地域の文化や自然とともに豊かに生きていく力を育んでいきましょう。そして、保育者、教育者自身が子どもや親とともに育ち合しましょう。

～わらべうたあそび・ふれあいやあそびをとおして～

子どもたちがつくり、継承してきたわらべうたあそび・ふれあいやあそびには、からだ・ことば、そして心を育てる大切な学びがたくさんつまっています。

人の声、からだ、ことばであやされ、ふれあいやあそびは、ことばをまね、からだをまね、友だちといっしょにリズムに合わせてあそび喜びにつながっていきます。それが、集団のなかで生きていくうえで大切なさまざまな知恵や約束、役割などの意識へとつながっていきます。

明確な目的やねらいをもちながらも、子どもたちの思いや気づきを大切に生活に根ざしたあそびをとおして、子どもたちに豊かな心を育み、そしてまた、保育者・教育者も自身のからだ観、保育観を見直し、子どもたちとともにあそびを楽しみ、さらに創り出していきましょう。



【取組のポイント】

子どもたちが「気持ちいいね〜楽しいね〜」と感じ、あそびの楽しさ、こころとからだがあはれることを実感できるよう、ぬくもり、ふれあい、心の交流を大切に。

かかわるおとなが子どもたちと、「気持ちいいね〜楽しいね〜」を共有して。

できる、できない、上手、下手で評価しているおとなの見方の変換を！
目の前の子どもを出発点にして、子ども自らの気づきをうながすやりとりを。

子どもが主役。そのためのひと工夫・・・。
一人ひとりの表現、一人ひとりのリズムを大切に。



♪四日市、伊賀会場では、絵本の動作化の体験研修もしました。

いくつかのグループに分かれて、「もこ もこもこ」や「いっぽんばし わたる」などを題材にして、言語のイメージを出し合い、からだをつかって表現し合いました。



「もこ もこもこ」



「いっぽんばし わたる」



「かきくけこのかたいこと」



「ちびすけ どっこい」

【参加していただいた方のアンケートより】



体を動かし心をほぐす、正解・不正解のない遊びの中で相手を思う気持ちや、自分をそのまま受け入れてもらう嬉しさなどを感じる事が人権教育につながっていくのだと感じることができました。



とても楽しい時間でした。あそびや生活の中でつい「できたね」「すごいね」と子どもたちを評価する声かけが多かったなど気づかされました。あそびには間違い・正解はないので、もっと柔軟に子どもたちの表現をおだやかな気持ちで受けとめていきたいなと思いました。身体も気持ちもなんだかほっとすることができました。あそびについて、子どもたちが楽しめるように…と言いながら固くなりすぎていたので自分自身も体いっぱい楽しんでいきたいなと思います。



自分が今求めていること、知りたいことがバッチリと重ね合わさった研修でした。先生のお人柄、進め方、内容、何が人権で保育士は何を大切にしたらよいのか。クラスで悩んでいた自分に光がさしたような気がします。これからも子どもたちをありのままに受けとめ、温かい保育をしていけるようがんばりたいと思います。



「人権」「人権保育」と言葉だけでは難しくとっつきにくく感じますが、難しいことではなく、子ども一人ひとりのありのままと向き合ったり関わったり、また自分自身のありのままの姿を周りの人に見せることができたり、もっと身近なことだと感じました。ありがとうございました。

心に残ったのは、人と人とのふれあいの中で、表情・力加減など相手を想う気持ちを築いていくのだと思いました。人は人の間で人と関わって生きていく。その基礎を大切にする時期だからこそふれあいを大切にしていきたいと思いました。

参加型の楽しい講座でした。随所で子どもと接する中でつい言いすぎてしまう声かけに気づかされました。失敗をこわがっている自分にも気づけたし、子どもだってそう思っているかもしれないことに気づけて良かったです。



ふれあいあそびの楽しさを、実際に自分が体験することで直接肌で感じることが出来ました。初めは緊張もあったけど、楽しさから自然と笑顔になり、その笑顔がつながってあったかい雰囲気の中、みんなで楽しさを共有できたように思います。一人にすることはしない、優しさを持って子どもと接することができるよう、自分の保育にいかしていきたいです。



心も体もほぐされて幸せな時間でした。目の前の子どもからすべては出発し、子どもの行動には必ず理由がある。そのことをしっかり考えて子どもたちに関わっていきたくて思いました。困った子は困っている子、困った親は困っている親、この言葉が心に残りました。



いつもかかわる子どもたちの姿を思いうかべながら参加させていただきました。子どもたちの背景にあるものを常に意識しながら、子どもたちと向き合っていきたいと思います。元気をもらえました。ありがとうございました。



保育現場で実際に使えそうな遊びや歌をいろいろと教えていただきよかったです。また、表現することの楽しさを自ら実感、体験でき、子どもの気持ちを理解することにもつながりました。心をほぐすことが自尊感情につながるということも大切なことだと思いました。



あそびの中での子どもの見方、視点をわかりやすく話してもらえたので良かったです。保育の中で子どものあそびを見るとき、保育者が“ひとりぼっちにしない”ということを常に意識しておくことで、あそびの中での言葉かけや内容が違ってくることを感じました。その思いが、子どもたちに伝わっていくことこそ、あそびの中での人権感覚を育むことだと思いました。

さまざまなうたあそび・わらべうたあそびを楽しくさせていただきました。その一つ一つのあそびの中でも、何を大切に遊んでいくか。子どもの様子にあわせてルールを変えていく柔軟性が大事だと感じました。「だれもが主役になって」「ひとりぼっちをつくらない」遊び方を意識しながら楽しんでいきたいです。

日々の保育を見つめ直す機会となりました。あたりまえに進めていた内容・歌なども広げた遊び方を教わり、私自身も楽しかったです。子どもの目線に立ちかえることが子どもの気持ちに寄り添うこととなるので、今後にいかしていきたいです。

遊びだから間違いはないという言葉聞いて、子どもがのびのびと楽しんでふれあえる活動を保育士は子どもとともにやるのが大切であるとわかりました。知らないわらべうたもあって勉強になりました。保育士の言葉かけや、少しの心配り、気配りで遊びは無限に広がっていきなると感じました。

